



白バラ牛乳  
大山乳業農業協同組合

# 酪農だより

Vol.  
684

平成31年1月号

あなたへ贈る「白の一滴、心の一滴」～酪農家の心を食卓へ～

## 今月の特集

・年頭所感

代表理事組合長 小前孝夫

・新年のご挨拶

農業振興戦略監畜産課課長(鳥取県)

岡垣 敏生

## 現場潜入

大山乳業農協の牛乳ができるまで

## 各種活動レポート

## 指導課通信

## 大山乳業農協からのお知らせ



# 年頭所感

代表理事組合長

小前 孝夫



新年明けましておめでとございます。

組合員の皆様をはじめ、職員、関係者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと謹んでお喜び申しあげます。また、旧年中は組合運営に對しましてご理解ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

酪農乳業を巡る情勢は大きく変化しつつあり、昨年は特に大きな動きがあった年となりました。

貿易交渉に於いては、昨年末に発効されたTPP11、本年2月発効見込みの日欧EPA、米国との通商交渉が始まるなど、市場の開放と国際

化が加速し今後、酪農経営、乳業情勢に大きな影響が考えられ懸念されるところであります。酪農制度に於いても、酪農家の経営支援となつて

いる補給金制度が昨年4月から改正され、長年継続されてきた暫定措置法から畜安法の下での恒久化となりました。補給金の交付対象が拡大され、制限はあるものの生乳の販売先を選択できるなど制度が大きく転換されました。

こうした中、昨年は豪雨、台風、地震など自然災害が頻発し多くの被害が発生しましたが、需給調整や緊急時におけるブロック間の協力連携により廃棄乳を最小限におさえるなど、指定団体機能の重要性と意義を再認識する年となりました。

さて、組合の昨年の状況ですが、生乳生産は夏の酷暑の影響などにより計画は未達成でしたが、前年対比101.9%と6年ぶりに前年を上回る生産となりました。都府県

の生産が落ち込む中、規模拡大や新規牧場の開業による生産基盤の強化、飼養管理の徹底による生乳増産への取り組みなど、生産者の意識の高まりに感謝申し上げます。

酪農事業では、販売高は143.2億円で前年を大きく上回り、計画対比でも101.3%と目標達成することができました。中でも牛乳は、一昨年からコンビニエンスへの供給継続、被災された乳業の代替品、牛乳の健康効果を取り上げたテレビ報道、白バラ牛乳の乳質の良さを取り上げてくれた週刊誌の記事などの追い風もあり、特に紙牛乳は前年比116.7%と大きく伸ばすことができました。乳飲料、発酵乳も好調でありましたが、菓子、アイスのデザート部門についてはOEMの受注が減少し前年割れとなりました。

収益面では、計画を上回る販売高でありましたが、秋以降の輸送費や燃料費、資材費の値上げで経費が計画以上に嵩んだこと、菓子、アイスの利益率低下などから増収減益の

決算となる見込みであります。デザート工場建設の検討中でもあり、課題を残す結果となりました。

今年は、第7次中期経営計画の2年目として・酪農生産基盤の強化・ブランド力の強化・酪農事業の更なる利益改善・組合の経営基盤強化の運営方針に従い、目標達成に向けて努めて参ります。

生乳生産の関係では、県事業の利便による増頭計画が順調に進んでいることや、畜産クラスター活用による規模拡大も進行しており、今年も増産となる見込みであります。組合の役割は、生産される良質生乳を価値ある価格で販売することであり、増産される生乳を処理販売するためにも、新規取引先の開拓が急務であり、関東地域の販路拡大を目指し、鳥取から東京へのミルクロード構築に向けて準備を進めたいと考えています。いよいよ今春から白バラ認証制度の本格運用が開始されます。生産現場のブランド強化策であり、全組合員が認証牧場となるよう取組みをよろしく願います。

ます。

昨年より始めた職員とのランチミーティングですが、生産現場の情報伝達、職場の改善提案、組合の将来についての話し合いなど、良きコミュニケーションの場としてより充実し継続したいと思っています。

結びになりますが、今年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願いいたしますと共に、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げて、年頭の挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶



鳥取県農業振興戦略監  
畜産課 課長

岡垣 敏生

新年あけましておめでとございます。

昨年は、7月の西日本豪雨、9月

には北海道胆振東部地震、台風24号と大災害が鳥取県を含めた全国で立て続けに起こりました。特に北海道胆振東部地震では、全道停電（ブラックアウト）による長時間停電の影響で搾乳作業や生乳の冷蔵に支障をきたし、2万トンもの生乳が廃棄され、北海道だけでなく日本の酪農にとって重大な影響がありました。また、26年ぶりに日本で、海外から持ち込まれたと見られる「豚コレラ」が発生し、国際化の進展により「海外悪性伝染病」が何時でも日本に侵入する危険性を示した年でもありました。

さらに、昨年12月30日にはTPP11が発効し、今年2月1日に日・EUのEPAが発効すると共に今年の早い段階で、日米間の二国間交渉が始まるなど今年以降の日本の畜産を取り巻く環境は非常に厳しくなることが予想されます。

そのため、国は平成30年度補正で560億円の畜産クラスター事業の予算確保を行い、国内の酪農業振興を拡充する取組を提案してい

ます。併せて、今酪農をされている方々が長く続けることができるように、つなぎ牛舎の改良支援、災害に備えた非常用電源設備の導入支援や経年劣化が進んでいる家畜排せつ物処理施設の支援といった対策も提案しています。

近年、乳製品は、心疾患の予防や高齢者のロコモティブ症候群（運動器症候群）予防にもつながる健康食品としての評価も高まっています。昨年、週刊誌で「日本一老けない牛乳は鳥取県にあり」と大山乳業農協と生産者の今までの取組を高く評価する記事が紹介され鳥取県の酪農業にとっては追い風が吹いている状況です。

こうした状況をさらに強固なものとするために、県では、一昨年から実施しております初妊牛導入への助成事業を継続して、乳用牛の増頭への支援策を継続すると共に2020年の第15回全日本ホルスタイン共進会への取組の一環として様々な優良遺伝子の検査への助成をしていくこととしております。

「亥年」は次に備えてエネルギー

をうちのため込む「内部の充実」を図る年であります。災害に強い酪農づくりや鳥取県の酪農がさらに大きく花開くように、酪農家の皆様元気な頑張るため県としても全力で取り組んでまいります。

本年が組合員の皆様、職員の皆様にとって、平穏で健康に過ごしていただける年であることをご祈念申し上げます。



# 大山乳業農協の 牛乳ができるまで

## 《第1回 牛の誕生・成長編》

早朝、「ブーン……」という音が響き渡ります。搾乳前のミルクカーを洗浄する音です。それが終わると「カッチ、カッチ……」と真空ポンプの音が聞こえてきます。毎朝、毎晩、台風の日も、吹雪の日も、同じ時間に、同じ音が牧場に広がり、搾乳開始を知らせます。当然ですが、牛は産まれた瞬間から乳が出るわけではありません。産まれてきてから、その牛が乳を出し、集乳されるまでを追ってみました。

分娩が近づくと、母牛はソワソワ落ち着きがありません。立ったり座ったりを繰り返します。分娩は人も牛も命がけです。無事に子牛が産まれてくると母牛はやっと一安心。子牛を舐めてその誕生を喜びます。子牛が初めて口にするのは初乳です。これは出荷される生乳とは違い、子牛に大切な免疫物質等が豊富に含まれています。初乳をきちんと飲めないと、子牛に免疫力が付かず、病気にかかりやすくなってしまいます。充分に初乳を与えられた子牛はその後、代用乳(ミルク)を用いて哺育されます。それでも生後間もない子牛は免疫力や体力が弱く、病にか

美味しい牛乳は  
元気な子牛から





1 2



3



- 1. 元気な子牛が誕生しました！
- 2. 沢山ミルクを飲んで大きくなってね！
- 3. 大山放牧場にいる育成牛の様子
- 4. しっかり食べて反芻（はんすう）中の搾乳牛
- 5. 日々の搾乳のようす



4 5



かりやすい状態の為、群管理ではなく、1頭ずつカーフハッチという部屋で飼育されます。

## 泌乳までの道のり



突然ですが、牛の胃袋は幾つあるのでしょうか。人間は1つ、豚も1つ、鳥は2つ、ちなみに鯉は胃がありません。では牛は？なんとその数、4つ！

4つも胃がある牛ですが、その名前には至って単純。第一胃、第二胃、第三胃、第四胃。哺育期間はミルクを飲むと反射的に食道から第二胃溝という溝を介して、そのほとんどが第四胃へ直接流れ込む仕組みになっています。第一胃は非常に大きな胃袋で、牛にとって重要な発酵装置の役割を持つ

ています。第一胃にミルクが入ってしまつと異常発酵を起こす為、ミルクの与え方にも注意が必要となります。その後はミルクを徐々に減らし、人工乳（固形飼料）を給与していきます。この固形飼料により、第一胃の消化機能が発達していきます。完全に離乳が出来て、ある程度成長すると群管理で飼育されます。この時期は育成期間と呼ばれ、体の成長にとって重要な時期です。しっかりと食べて、しっかりと運動して、病気にかからず元気に大きくなってもらうことが大切です。十分に成長した牛は、人工授精により妊娠。小さな命を大事に280日間程お腹の中で育てます。その間に乳房は泌乳の準備を行います。40キロ程度の元気な命の誕生を終えると、いよいよ泌乳が始まります。

## 搾乳、そして食卓へ



分娩後の乳は子牛に与えるか、廃棄されます。初乳成分が消失すると、搾乳牛の仲間入り。乳が出荷されます。酪農家さんは朝と晩、毎日同じ時間に搾乳の準備を行い、搾乳牛の乳房を綺麗に拭き、ミルクカーを装着します。次々に搾乳が行われていき、最後の牛

の乳頭からミルクカーが外れる頃には、生乳がバルククーラーにたっぷり！バルククーラーとは搾乳後に生乳を一時的に保存できる冷蔵機能付きのタンクです。後に集乳車が到着し、バルククーラー内の生乳を回収してくれます。このようにして集められた生乳が工場に到着し、製品として処理され、私達の食卓に届きます。

沢山の過程を経て作られた大山乳

業農協の製品。健康な牛、酪農家の愛情、安心安全を届けたいという職員への想いがあるからこそ美味しい乳製品をお届けできます。自慢の大山乳業農協の牛乳、今日もいかがでしょうか？今回から数回に渡り私達の原点であり、誇りでもある良質な牛乳が出来るまでを追いかけてみます。

今回は、私達に良質な生乳を届けてくれる牛の成長を追いかけてみました。製品が出来るまで、というと製造する工場にスポットが当たりがちですが、このようにして牛に注目してみると、私たちは貴重な生乳を頂いていると改めて感じます。

今回は、搾乳された生乳がいよいよ大山乳業農協へ到着します。搾乳された生乳がどのような工程を経て大山乳業農協へ到着するのか、現場へ潜入したいと思えます。次回もぜひ読んでみてください。

## 12/8 JA子どもフェスタでスイーツバイキング

12月8日(土)、まなびタウンとうはくでJA鳥取県中央会が主催するJA子どもフェスタが開催され大山乳業農協は参加者に牛乳・乳飲料・ヨーグルト・菓子をバイキング形式で振る舞いました。

JA子どもフェスタは、JAグループが取り組む食農教育活動の一環として、鳥取県内の小学校・中学校に在籍する児童・生徒を対象にした「わかば」作文・図画コンクールなどを行っており、今回は、「わかば」作文・図画コンクールと、JA共済書道・交通安全ポスターコンクールで受賞された62名と、そのご家族が招待されました。

大山乳業農協は、副賞として大山マドレーヌを提供したほか、表彰式終了後の受賞者とそのご家族へ牛乳・乳飲料・ヨーグルト、お菓子などをバイキング形式で食べて頂きました。

参加された受賞者の皆さんとそのご家族は、たくさんのお白バラ製品を前に、思い思いの製品を選び、ご家族と楽しい時間を過ごされました。



## 12/26 永年勤続表彰式が開催されました

12月26日(水)、平成30年度永年勤続表彰式が開催されました。

今年度は、勤続40年が1名、30年が7名、20年が6名、10年が19名の総勢33名が表彰を受けました。

小前組合長は祝辞の中で、表彰者へ長年の貢献に感謝の言葉を伝えられ、続けて、幅田前組合長の言葉で感銘を受けた、竹の成長の話に触れ、「節を重ねて成長する竹のように皆さんも節目節目を大切にしてください。そして今日に至るまでには自身の努力だけでなく、家族の支えがある事も忘れず、家族も大事にしてほしい。」と言葉をかけられました。

表彰者は祝い金を授与され、表彰者を代表し、品質管理部の市村部長がお礼の言葉を述べられました。



表彰式の様子 (写真は指導部山本部長)

## 1/4 新年互礼会が開催されました

1月4日(金)、新年互礼会が開催されました。

小前組合長は昨年を振り返り、鳥取県には直接の被害がなかったものの、自然災害が印象に残ったが大山乳業農協としては製造に大きなトラブルがなく無事1年が終えられた事は良かった。また、職員間の関わり・コミュニケーションの大切さや重要性を改めて感じた、とお話されました。

今年については、関東への販路拡大を勧めたいという展望やTTP・グローバル化による市場の激化を懸念しておられました。職員の間で決意を合せて一緒に努力したいと決意を新たにされました。

この他に、改善提案表彰・豆塾の取り組み発表が行われました。



新年互礼会の様子



豆塾取り組み発表

## 1/16 大山乳業の歴史が日本海新聞の「鳥取県平成史」に掲載

1月16日(水) 日本海新聞の鳥取県平成史で大山乳業農協の記事が掲載されました。

日本海新聞では昨年11月から今年4月の期間、鳥取県内の「平成の出来事」をピックアップし、その後の鳥取県に大きな影響を与えたかどうかを基準に出来事を選出。当時の日本海新聞報道記事を引用しながら全30回に渡り特集紙面を連載されています。

安心安全の牛乳づくりと題し、新工場の建設から現在の生産・処理・販売の一貫体制になる道のり、さらには白バラブランドをさらに発展させていくための取り組みにも触れ、また、当時の様子を知る平野専務の話 exchanges、様々な転換期を乗り越えた大山乳業農協を紹介しています。

鳥取県内

### 乳業メーカー一本化 大山乳業「核」に

45億円、04年に新工場

三湖の統合を機に、鳥取県内最大の乳業メーカーとして、2004年に新工場を稼働させた。...

当時(平成14年2月16日)の新聞記事

明けましておめでとうございます。  
2019年が大山乳業農協にとって飛躍の年となるよう生産者の皆様、従業員一丸となって頑張っていきましょう。

そのためには個々の健康管理が重要となってきます。というわけで、今月はこれからの時期に流行するインフルエンザのお話です。

インフルエンザには大きく分けてA型、B型、C型の3種類があり、この中で一般的なインフルエンザの症状(高熱、関節痛等)を示すのがA型です。また、A型ウィルスは変異を重ねながらどんどん進化しており、そのため今までに獲得した免疫が機能しにくくなり、流行しやすいといった特徴があります。

B型は、症状(微熱、嘔吐、腹痛、下痢)が風邪と似ており、本人の自覚が無いまま、知らないうちに周りに感染を広げていることがあるため、注意が必要です。

C型については、大抵の人が生涯一度しかかからず、また症状も鼻水程度で終わるため、感染したことにすら気が付かない影の薄いインフルエンザです。

インフルエンザの予防には、①流行前のワクチン接種、②マスクの着用、③外出後の手洗いやうがい、④適度な湿度の保持、⑤十分な休養とバランスのとれた栄養摂取等が有効です。

また、仮に感染してしまった場合には、外出を控え、自宅で安静にして休養をとりましょう。この際、熱が下がったとしても、体内にはまだウィルスが残っているので、人にうつさないよう、平熱に戻っても最低2日は安静にして、回復に努めることが大切となります。

これらは風邪等の予防にも有効な手段となりますので、実践頂き、皆で元気にこの冬を乗り切りましょう!



お風呂上りの1杯におすすめです!

是非飲んでみてください。  
デザインは大山乳業農協の売れ筋商品白バラコーヒーに続く商品になって欲しいという思いで白バラコーヒーのデザインを踏襲させました。

## 白バラ大学セカンドシーズン1月講座 職場力をアップするなら乳学! 異性間コミュニケーションが 強くする職場のチーム力

佐藤 律子

さとう りつこ



大山乳業農協に関わる全ての人、社会人としてステップアップし、それぞれの個性を磨くための研修機関として昨年度開校した「白バラ大学」。

1月講座は、一般社団法人異性間コミュニケーション協会より、代表理事の佐藤律子氏を講師に迎え、職場のコミュニケーションについて講義いただきました。

佐藤さんは、この事業を始めた当初は婚活イベントの運営に携わり、男女間の考え方の違いや会話の組み立て方に注目されました。恋愛以外にも異性間のコミュニケーションは存在し、職場や家庭での会話を円滑にすることで、仕事や生活を充実させるための取り組みを始めたそうです。

男女間のコミュニケーションの第一歩として教わったのが、効果的な自己紹介です。自分を知らなくてもらうだけではなく、相手と距離を近づけるためには共通の話題を探すことが大切ということで、男性と女性お互いに好きなもの・行動・食べ物を考え、その共通点を見つけてワークを行いました。

男女平等の考え方が広まりつつある昨今ですが、男性と女性の考え方の違い、モノの捉え方の違いを知ることで、円滑なコミュニケーションが取れるということを学びました。



講義の様子

### 新入職員紹介

1月より製品開発センターへ配属になりました鈴木もとです。

前職では豆腐メーカーの品質保証室に勤めておりました。以前から製品開発に携わりたいと考えており、製品開発センターへ配属され大変嬉しく思っております。皆さんと大山乳業農協を盛り上げていきたいです。1日でも早く戦力になれるよう精進して参ります。よろしくお願ひ致します。



### 私のオススメ

大山乳業農協京都営業所の谷口です。

大山乳業農協のある琴浦町で生まれ育ったので私自身、大の白バラファンです。

私のおすすめは、「白バラフルーツ」です。一時期白バラフルーツは終売となっておりましたが、私が乳飲料の担当をした際、昔のフルーツが飲みたいという多くの声を受け復刻発売にこぎつけました。



## 公益財団法人鳥取県畜産振興協会 乳用牛放牧預託牛成績状況報告

単位：頭

平成30年12月31日現在

牧場名	区分	頭数	内 訳									
			育成牛	種付け対象牛			妊娠牛（月齢）				妊娠牛中のET	
				うち種付中	うち妊鑑待ち	未種付	17以下	18~20	21以上			
鳥取放牧場	乳牛	564	185	186	140	40	46	193	115	64	14	71
	割合(%)	100	33	33	25	7	8	34	60	33	7	37
鳥取放牧場計	乳牛	564	185	186	140	40	46	193	115	64	14	71
	割合(%)	100	33	33	25	7	8	34	60	33	7	37
大山放牧場	乳牛	454	165	123	68	29	55	166	73	55	38	30
	割合(%)	100	36	27	15	6	12	37	44	33	23	18
俵原牧野	乳牛	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合(%)											
大山放牧場計	乳牛	454	165	123	68	29	55	166	73	55	38	30
	割合(%)	100	36	27	15	6	12	37	44	33	23	18
総 計	乳牛	1018	350	309	208	69	101	359	188	119	52	101
	割合(%)	100	34	30	20	7	10	35	52	33	14	28

※1 種付けは、13ヶ月以上、体高127cmで実施

※2 妊娠牛月齢の割合及び妊娠牛中のETの割合は、それぞれ妊娠牛中の割合

### ET実績(乳牛)

※実施数、受胎率は鑑定済みのもの

年月	実施数	受胎数	受胎率
H29.11	45	24	53%
H29.12	41	22	54%
H30.01	40	22	55%
H30.02	37	18	49%
H30.03	81	45	56%
H30.04	43	21	49%
H30.05	42	23	55%
H30.06	34	15	44%
H30.07	36	15	42%
H30.08	34	13	38%
H30.09	52	29	56%
H30.10	61	30	49%

### AI実績(乳牛)

年月	実施数	受胎数	受胎率
H29.11	139	73	53%
H29.12	128	65	51%
H30.01	106	64	60%
H30.02	103	59	57%
H30.03	77	42	55%
H30.04	98	49	50%
H30.05	103	60	58%
H30.06	82	49	60%
H30.07	58	21	36%
H30.08	96	48	50%
H30.09	113	61	54%
H30.10	121	76	63%

## 平成30年12月分 生乳出荷量別生産者戸数

出荷乳量	出荷戸数(戸)	
	平成30年	平成29年
100t以上	13	11
80t以上 100t未満	4	5
60t以上 80t未満	9	9
40t以上 60t未満	12	11
20t以上 40t未満	31	34
10t以上 20t未満	24	25
10t未満	21	27
計	114(+1)	122

## 輸入粗飼料の情勢

品目	今後の改定要因			特記事項
	品代	為替	フレート	
フレート			↑	2019年から既存の海上運賃に加え、新たにチャージ・費用を設定する動きが見られる。地球温暖化への対策として2020年に船舶の燃料における硫黄の含量について規制が強化されたため、2019年から荷主に向けて追加費用を適用する動きが具体化してくる見込みだ。
ビートパルプ	↑	→	↑	新穀の収穫作業は、収穫期の悪天候の影響もあり収量は軒並み当初の見込みを下回っており大幅な減産となった。今年はエルニーニョ現象が予想されており、生産地の冬季間における気温の上昇をもたらす可能性があり、保管中のダメージなどが懸念される。 また、米国産アルファルファと同様に、サウジアラビアからの引き合いが徐々に強くなっている。その需要は大きく、中国と並びビートパルプ輸入国として台頭してくる可能性がある。米中貿易問題でその引き合いは沈静化しているものの、引き続き中国の潜在需要は高く、これにサウジアラビアが加わると、世界的な需給バランスや商流に大きな影響を与えることは避けられないものと考えられる。
ハイキューブ	→	→	↑	
スーダングラス	→	→	↑	豪州産オーツヘイの価格の高騰を受け、安価なイネ科牧草としてスーダングラスの中～低級品への需要が高まっていること、米国内の肥育牛農家からの需要も堅調であることから産地相場は強含みに推移している。 しかし、18年産の価格も生産農家にとって満足できるものではなかったことから、作付面積の大幅な増加は現時点では考えにくい。
アルファルファヘイ	→	→	↑	過去数年で日本向けアルファルファの産地は多様化している。2010年代前半まで、米国産アルファルファと言えばPNW(ワシントン州・オレゴン州)が主とされていたが、ここ数年で海上運賃の競争力が高いPSW出し(主としてカリフォルニア州、一部ユタ州・ネバダ州)の割合が増えている。
USチモシー	→	→	↑	日本および韓国からの引き合いは引き続き堅調で、豪州産オーツヘイの不作の影響から米国産チモシーへの引き合いも増加することが予想されるため、産地相場は弱含む要素に乏しく、新穀までは現状のまま高値で推移する。
カナダチモシー	→	→	↑	産地相場については、旱魃の影響でカナダ国内の自給粗飼料も不足していることからチモシーへの需要が高まっており、産地相場は大幅に上昇したまま米国産と同様に現在も高値で推移している。
オーツヘイ	↑	→	↑	<b>【西豪州】</b> オーツヘイの7割程度が降雨被害を受ける結果となった。当地においては上級品の発生は限定的であり、中～低級品の発生が中心となっている。 <b>【東豪州および南豪州】</b> クイーンズランド州およびニューサウスウェールズ州の豪州国内の酪農家および肥育農家からの需要も旺盛であることから、例年よりも輸出向けの供給力は低下している。 また、旧穀から大幅な値上げとなったため、他草種への移行も含め今後の日本国内の需要動向には注視が必要と言える。
クレイングラス	→	→	↑	作付面積は前年に比べ大きく増加しており、19年産は生産量の増加が期待される。日本および韓国からの需要は引き続き旺盛な状態が続いており、特に韓国からの需要はさらに高まっている。昨年に続き、極めて低い在庫率のまま新穀を迎えるため、相場が過熱する恐れがある。
ストロー類	↑	→	↑	産地では生産農家がさらなる相場上昇を期待し、在庫を抱えている状況で産地相場は今後一段と上昇していく可能性がある。 また、ストロー類の主要な積み出し港であるポートランド港では、空コンテナが不足し続けており、船積みの遅れも散見され、今期のストロー類は産地価格に加え輸送面でも懸念を抱えている。
ルーサンペレット	→	→	↑	

## 大山乳業酪農女性部 部員研修会を開催

大山乳業酪農女性部では年に1度研修会を実施しています。例年、視察研修や大山乳業農協の職員を講師にした勉強会など、酪農に関する研修会を行っており、今年度は11月15日(木)に鳥取県農業共済組合家畜診療所の田中久美子先生に「子牛の管理と子牛のことをもっと知ろう」と題してご講演頂き、約30名の参加がありました。

この日は、田中先生による子牛への処置についてのお話と、子牛の世話を楽にする方法やアイディアの紹介をして頂きました。

講演では、日頃子牛に施す処置について、「なぜこの処置をするのか」という理由や、子牛に適切な処置をするための有益性を教えて頂きました。

さらに、家事に、子育てに、仕事に忙しい女性に、少しでも楽に子牛の世話が出来るアイディアということで、実際に農家で実施されていて、田中先生が便利そうだと思ったアイディアや便利なアイテムを紹介して頂きました。

講演後は質疑応答も活発に交わされ、研修会は大変盛り上がりしました。

参加者からは、なぜこの処置をするのか。しないといけないからという漠然とした中で処置をしていますが、処置をする理由を説明して頂いたことで、自分たちがしていることの

根拠を再確認でき、良かったとの声が多くありました。

田中先生は、「知らずにやらないのと、知っていてやらないのは違う」ということで非常に丁寧にご説明頂きました。お忙しい中、講師を引き受けてくださった田中先生、本当にありがとうございました。



研修会のようす

## 酪友フォーラムが 開催されました

11月29日(木)・30日(金)皆生グラウンドホテル天水にて第25回酪友フォーラムが開催されました。このフォーラムは西日本酪農青年女性会が酪農家の友好やコミュニケーション、参加者の見識を広げる事を目的に開催されています。

西日本酪農青年女性会議の会員約90名が集まり、大山乳業農協からも青

年部会、女性部より約30名が参加しました。今回は地元開催ということで白バラ牛乳や白バラ牛乳シフォン、さらには、白バラ牛乳ポチ袋が配られ、参加者から好評でした。

フォーラムは第1部の研修会と第2部のグループワークに分かれており、第1部のテーマは「小さなチームの強みを磨く」、第2部のテーマは「自分ルール『マイクレド』づくり」と題して、地元倉吉市にある流通株式会社社長の江原剛氏にご講演頂きました。

江原社長の楽しいお話と共に、グループワークではコミュニケーションの取り方や自分の大事にしていることなど、わいわい盛り上がりつつ話をすることができました。また、フォーラム後の懇親会も恒例のお楽しみ抽選会で盛り上がりしました。

お忙しい中、多数の方にご参加頂き、ありがとうございました。



酪友フォーラムのようす

## 平成30年度中国地区牛乳・ 乳製品料理コンクール開催

11月10日(土)に岡山県で平成30年度中国地区牛乳・乳製品料理コンクールが開催されました。

このコンクールは、牛乳・乳製品の知識普及と消費拡大を目的に開催されたコンクールで、今回、中国地区5県から県大会を勝ち進んだ10名が参加しました。

審査の結果、「星取県のねばりっこソースグラタン」を調理した、鳥取県代表の宇山さんが最優秀賞を受賞しました。

宇山さんは県大会後、具材の切り方や色彩り、盛り付け等にさらに工夫を重ねたそうです。宇山さんは、「コンクールに出場して、酪農家が減っていることや牛乳の消費率が下がっていることを知りました。今回の作品が、牛乳の普及や消費につながると嬉しいです。」と語ってくださいました。(文：鳥取短期大学HPより抜粋)



最優秀賞を受賞した宇山さん



「星取県のねばりっこソースグラタン」



# 大山乳業農業協同組合 からののお知らせ

D a i n y u I n f o r m a t i o n

## 理事会だより 平成30年12月20日理事会にて 次の議案が決議されました

### 【提出議案】

- 第1号議案 全国監査機構監査指摘に対する回答について
- 第2号議案 11月末経営検討について
- 第3号議案 平成31年度事業計画について
- 第4号議案 役員定数について
- 第5号議案 推進委員に対しての手当について

## 異動辞令等 下記の通り異動辞令が 発令されました。

異動辞令(平成31年1月4日付)

(所属及び役職)	(氏名)	(旧所属及び役職)
製品開発センター 職 員	鈴木 もと	中途採用

## 工場見学 ご来場のお客様から素敵な プレゼントをいただきました!

日々様々なお客様と接する工場見学では、ご来場のお客様からお手紙などをいただく事もしばしば。先日、工場見学へ来られたお客様から、大きな自作クイズ「もーもクイズ」のパネルを頂きました!!

とても丁寧に作って頂いたのが伝わってきます。

こちらのパネルは工場見学待合コーナーへ展示して、来場者を出迎えています。大切に展示致します。



## その他 インフルエンザ・ノロウイルスに ご注意ください

インフルエンザが流行の兆しを見せています。鳥取県内では現在のところ、やや流行している程度ですが、これからの時期に猛威を振るうインフルエンザ。そして、この時期気を付けたいのが、ノロウイルス!ノロウイルスの食中毒は11月～2月に発生する割合が70%と言われてます。普段の生活から予防対策を取り入れて、皆さんが、予防に努めましょう!

### インフルエンザの予防

- ・マスクの着用
- ・外出後の手洗いやうがい
- ・適度な湿度の保持
- ・十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

咳エチケット



インフルエンザ  
については...

月刊

エントーさん

(7ページ)  
をご覧ください

### ノロウイルスの予防

#### ■調理者の健康管理

- ・普段から感染しないように食べ物や家族の健康状態に注意しましょう
- ・症状があるときは、食品を直接扱う作業をしないようにしましょう

#### ■作業前の手洗い

- ・トイレに行った後
- ・調理をする前
- ・料理の盛り付けをする前や次の調理に移る時
- ・汚れの残りやすいところを丁寧に(指先・指の腹・爪の間・親指のまわり・手首)

#### ■調理器具の消毒

- ・塩素消毒
- ※エタノールや逆性石鹼はあまり効果がありません
- ※洗剤などで十分に洗浄し、熱湯で加熱する方法も有効

## ホームページ からの声



■牛乳は必ず白バラ牛乳と決め、毎日飲んでます。鳥取の味。安心して飲む事ができます。(鳥取県)

■販売の方も良い人が多く、丁寧なので、いつも気持ち良く利用させてもらってます。スーパー等でも大山と書いてあるものを選んで子供に食べさせたりしてます。(兵庫県)

■純生クリームを使ってケーキを作りました。ふわふわにスポンジが焼き上がり感激しました。素材が良いと味も抜群に美味しかったです。(埼玉県)

■白バラコーヒーを鳥取旅行の際に購入しました。とてもまろやかで優しい味で、小学生の娘たちも大変気に入っておりました。先日、地元のスーパード、大山のむヨーグルトを発見。もつとたくさんの商品が地元と並ぶといいなあと思います。(佐賀県)

■生き物を育て、品質を保ちながら美味しくて正直な製品を作るのは大変なことだと思います。鳥取を代表する誇れる製品だと思えます。頑張ってください!(鳥取県)

■こんなに美味しい牛乳があるなんてびっくりしました。成城石井で買います。先日の工場見学ではケーキ試食ありがとございました。とても美味しく頂きました。(東京都)

■いつも美味しくいただいています。今年、近くの配達所からクリスマスケーキを頼めることを知ったので、初めてクリスマスケーキが食べられるので楽しみです!!(大阪府)



# カウイーの Cow's Everyday エブリディ!

さく:福井チーフ え:堀江あかね

## 牛のご飯



### 編集後記

新年明けましておめでとう  
ございます。今年も皆さんに、  
毎月の酪農だよりを楽しく読  
んでいただけるよう編集委員  
一同頑張ります。今年もどうぞ  
よろしくお願ひ致します。

酪農だよりに関するご意見ご感  
想は下記のメールアドレスまで。

[email@dainyu.or.jp]  
こちらのQRコードからも  
メールアドレスを取得で  
きます▶



### Dainyu-PICUP!

## 酪農専門誌 DAIRYMANに 大山乳業農協の取り組みが 紹介されました!

先日発行された DAIRYMAN(デー  
リイマン) 2019 年新春特大号で大山  
乳業農協の取り組みが紹介されま  
した。

デーリイマンは、全国各地の優良  
事例・海外の最新酪農技術や酪農  
時事問題などを豊富に掲載されて  
いる情報誌です。

新春特大号では、大山乳業農協が  
良質乳生産を進めるために行っ  
ている牛群検定や来年度からスタート  
する白バラ認証制度など、2ページ  
に渡り紹介して頂きました。

特に白バラ認証制度の取り組み  
については、その経緯から現状、今

後の展望について小前組合長への  
インタビューや実際に武本牧場へ  
足を運び取材して頂くなど、大山  
乳業農協の生産現場の取り組み  
が紹介されています。是非読んで  
みてください。

デーリイマン 2019 年新春特大  
号をご覧になりたい方は、総務部  
企画室までお声かけください。



掲載記事

## 白バラアクリルキーホルダー 発売のお知らせ

大山乳業農協の白バラグッズよ  
り、新商品「白バラアクリルキーホル  
ダー」をご紹介します。

白バラアクリルキーホルダーは白  
バラ牛乳、白バラコーヒ、白バラフ  
ルーツの500ml容器とカウイーを  
デザインした4種類。大・小2つの  
大きさのラインナップで発売されま  
す(カウイーデザインは小のみ)。

アクリル素材ですので、大きなサ  
イズのキーホルダーでも軽いので、  
扱いやすく、リュックサックなどに  
つけても存在感のあるキーホルダーに  
仕上がりました。

発売日は1月26日(土)を予定して  
います。

発売前には  
ホームページ・  
フェイスブック  
ページでもお知  
らせ致します。  
気になる方は  
お見逃しなく。



キーホルダーデザイン

## あの日・あの時

大山乳業「酪農だより」バックナンバーから  
当時の様子を覗いてみます



今回紹介するのは、昭和47年6月発行  
の酪農だより第125号。  
米子市古豊千の酪農家で女性後継者の  
高橋敏恵さんを紹介しています。  
掲載当時、大学を卒業して3年目の高  
橋さん。自然と牛を相手に生き生きと酪  
農に取り組み姿が印象的な1枚でした。

# 酪農だより vol.684

White Rose 大山乳業農業協同組合

発行責任者/小前孝夫 編集責任者/平野 浩  
印刷所/山本印刷株式会社 発行日/平成31年1月20日

〒689-2393 鳥取県東伯郡琴浦町保 37-1  
TEL.0858-52-2211(代) FAX.0858-53-1501  
http://www.dainyu.or.jp E-mail:email@dainyu.or.jp